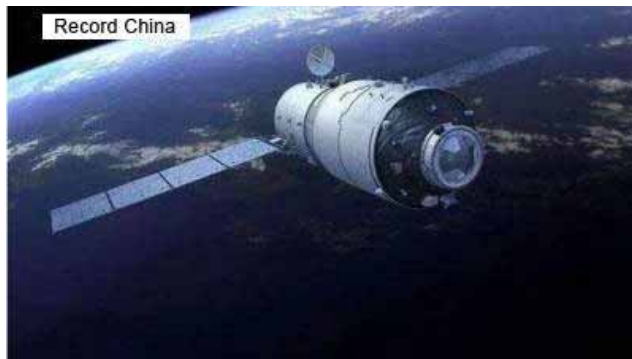


2 . 宇宙を巡る情勢変化 国際競争の激化

中国の動き

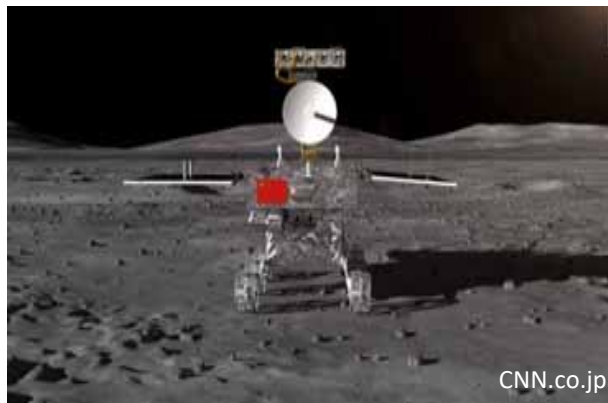
- 中国は、戦略的に宇宙活動を活発化し、急速にプレゼンス拡大。



独自の宇宙ステーションを開発
(2022年頃完成見込)



衛星測位システム「北斗」の基数(33基)
は米国GPS(31基)を凌駕。一帯一路の参加
国に急速に浸透



世界初の月の裏側への探査機の着陸成功
(2019年)



2018年の年間ロケット打上げ回数で米国
(30回)を上回り、世界1位に(35回)

米国の動き

➤ 米国は、数次の大統領令（Space Policy Directive）により、宇宙政策を強化。

➤ Space Policy Directive 1 (2017.12) <米国宇宙開発政策の再生>

- 人類の活動領域の拡大に向け、民間及び国際パートナーとのイノベティブかつ持続的な宇宙開発をリード
- 月の持続的かつ長期的な活用を目指し、その後、火星その他の天体も目指す 等

➤ Space Policy Directive 2 (2018.5) <宇宙の商業利用に関する規制合理化>

- 商業打ち上げ等に関するすべての規制の最小化
- 商業リモートセンシングに関する規制の見直し、及び商業リモートセンシング活動の活性化に向けた予算・制度的措置の実行 等

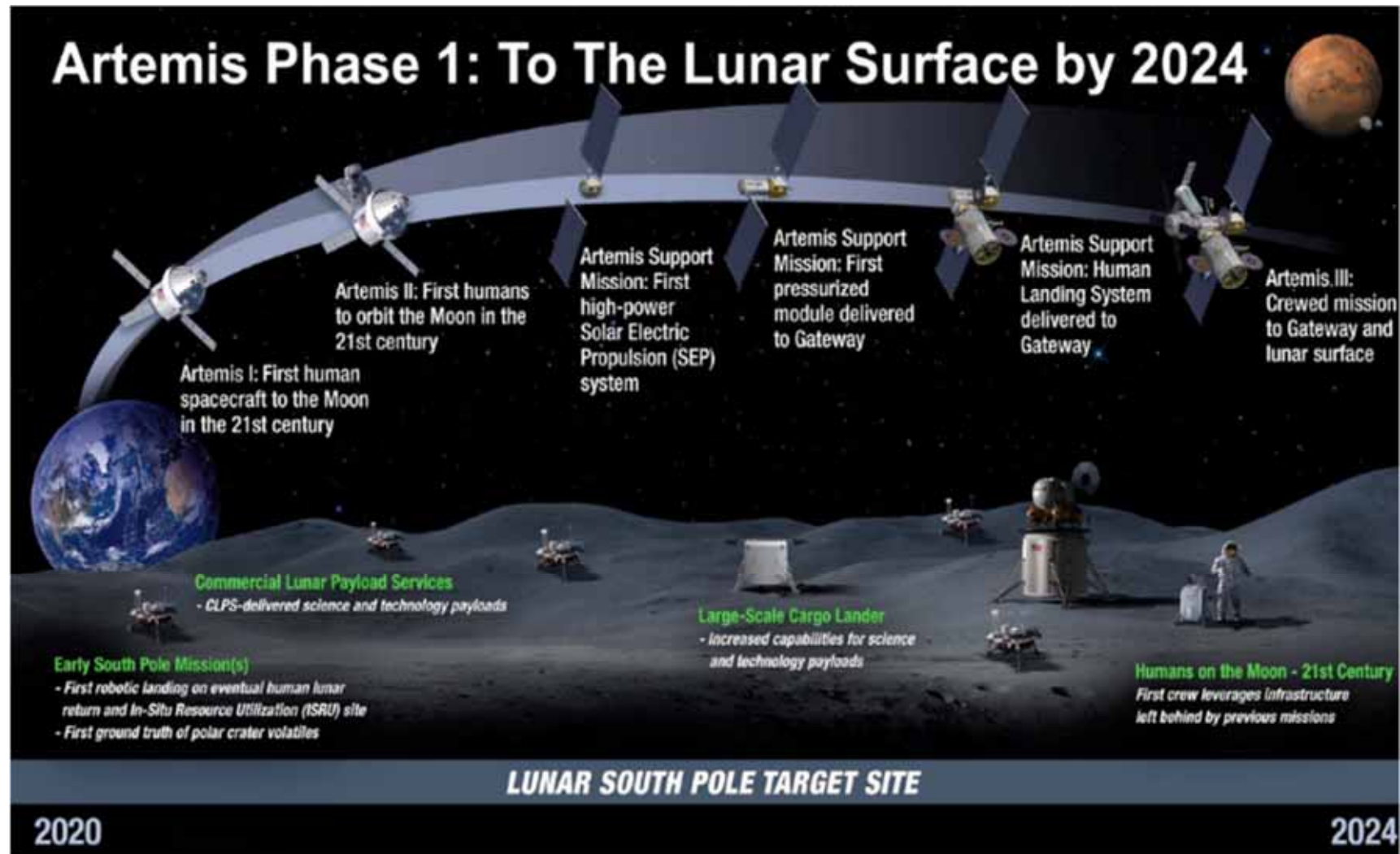
➤ Space Policy Directive 3 (2018.6) <宇宙交通管制(STM)政策>

- 宇宙デブリの増加や商業宇宙活動が増加・多様化する中、将来の宇宙活動のリスクに対応する必要性
- STM(Space Traffic Management)を発展させること等により、宇宙の安全性を高め、米国の持続的なリーダーシップと自由な宇宙活動を確保 等

➤ Space Policy Directive 4 (2019.2) <宇宙軍の設立>

- 潜在的な敵対国が宇宙能力を強化し、米国の影響力を無力化する術を持ち始めている状況に対応し、米国の国益を守るため、空軍内に宇宙軍を設立 等

米国の動き (アルテミス計画(第1段階))



出所：NASA

欧州の動き

➤ 欧州は、宇宙利用拡大に向けたインフラ整備を推進。

➤ Space Strategy for Europe (2016. 10)

- 1 . 欧州経済社会のための宇宙利用便益の最大化
- 2 . 欧州宇宙産業のイノベーション推進と国際競争力確保
- 3 . 宇宙アクセスにおける自立性の強化
- 4 . 国際協力の推進と欧州の国際プレゼンス強化



➤ コペルニクス（データ利用プラットフォーム）

- ・ 衛星観測データや公共機関が運用する地上データなどを融合し、2030年までの長期無償提供を保障。公共データインフラとして欧州委員会が運営。
- ・ 利用ニーズを踏まえた衛星開発。



➤ ガリレオ（欧州独自の測位衛星システム）

- ・ モビリティの進化への貢献を志向し、鉄道、船舶、航空、自動車（MaaS）などあらゆる交通システムと連携。